

がん化学療法レジメン登録票

新規レジメン登録の際にはプロトコールの提出が必須です
プロトコールがない場合は参考文献を提出してください

レジメン名	Pembrolizumab maintenance
診療科名	呼吸器内科
診療料責任者名	大槻 歩
適応がん種	切除不能な進行・再発の悪性胸膜中皮腫
保険適応外の使用	☐ 有 ☒ 無
入院外来区分	☒ 入院 ☒ 外来

がん治療ワーキンググループ使用欄	
登録番号	PM-10
登録日・更新日	2025年6月24日
削除日	
出典	キイトルーダ点滴静注 適正使用ガイド
入力者	島田 紀香

投与順に記入(抗がん剤のみ)						
	薬剤名：一般名 (薬剤名：商品名) 希釈液	規格	投与量算出式	投与経路	投与時間	施行日
	No.1 ペムブロリズマブ(遺伝子組換え) (キイトルーダ点滴静注) 生理食塩液 *1	100 mg	200 mg/body	☐ IV ☒ DIV ☒ CVポート ☐ 側管 ☐ その他()	30分	day1

1コースの期間	21日
投与間隔の短縮規定	☒ 短縮可能(1日) ・ ☐ 短縮不可能
計算後の投与量上限値	110%
計算後の投与量下限値	50%
減量・中止基準	【延期基準】 Grade 2 以上の間質性肺疾患 Grade 2 以上の大腸炎/下痢 AST(100-150U/L)若しくはALT(100-200U/L)又は総ビリルビンが1.5-3.0mg/dLに増加した場合 Grade 2 以上の腎機能障害 Grade 2 以上の下垂体炎、症候性の内分泌障害(甲状腺機能低下症を除く) Grade 3 以上の甲状腺機能障害 Grade 3 以上の高血糖、1型糖尿病 Grade 2 のInfusion reactionの場合(1時間以内に回復する場合には、投与速度を50 %減速して再開する) 【中止基準】 Grade 3 以上又は再発性のGrade 2 の間質性肺疾患 Grade 4 の大腸炎/下痢 AST>150U/L若しくはALT>200U/L又は総ビリルビン>3.0mg/dLに増加した場合 (肝転移がある患者ではAST(GOT)又はALT(GPT)が治療開始時にGrade 2 で、かつベースラインから50 %以上の増加が1週間以上持続する場合) Grade 3 以上の腎機能障害 Grade 3 以上の場合又は再発性のGrade 2のInfusion reaction (副作用の処置としての副腎皮質ホルモン剤をプレドニゾン換算で10mg/日相当量以下まで12週間以内に減量できない場合12週間を超える休業後もGrade 1以下まで回復しない場合) 上記以外でGrade 4の副作用発現時
催吐性リスク	該当なし
前投薬	なし
支持療法(その他)	なし
その他の注意事項	ペムブロリズマブは最大35コース投与 *1 日局生理食塩液又は日局5%ブドウ糖注射液の点滴バッグに注入し、最終濃度を1～10mg/mLとする。 インラインフィルター(0.2～5 μ m)を使用して投与 【免疫チェックポイント阻害薬を使用する際の注意事項】を参照